

平成 27 年 8 月

関係各位

日本小児アレルギー学会
理事長 藤澤 隆夫
災害対応WG委員長 足立 雄一

大規模災害対策におけるアレルギー用食品の備蓄に関する提案について

各自治体におかれましては、日頃より種々の災害を想定して防災対策を鋭意進めておられることと存じます。日本小児アレルギー学会におきましても、4年前に発生した東日本大震災での教訓を生かすべく、アレルギー疾患の子どもへの防災対策を種々の角度から検討して参りました。そのなかでも、発災当初には食物アレルギーの乳児に飲ませるアレルギー用のミルクがない、アナフィラキシーを発症する危険性があるために避難所の食事（成分表示がないため）が食べられないなどの状況があったことから、このたび自治体におけるアレルギー用食品の備蓄に関する案をまとめましたので、ご提案申し上げます。

各自治体には種々のご事情がおりますと思いますが、是非とも本案をご参考にしていただき、災害時に食物アレルギーの子どもたちが窮地に陥らないようご配慮くださいますようお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】

日本小児アレルギー学会事務局
〒110-0005 東京都台東区上野1-13-3 MYビル4階
電話：03-6806-0203 FAX：03-6806-0204
Email：office@jspaci.jp

大規模災害対策におけるアレルギー用食品の備蓄に関する提案

【アレルギー用ミルクの備蓄】

目 的：一般の人工乳が飲めないミルクアレルギーの乳幼児のために

品 目：ニューMA-1（森永乳業）等、乳たんぱく質消化調整粉末¹

備蓄量：通常の備蓄用ミルクの3%²

* なお、ミルクを配布する際にはミルクアレルギー児を優先させるが、ミルクアレルギーでない児でも飲むことはできるため、必要によっては一般の乳児にも配布可能（ただし、通常のミルクよりも味は劣る）。

* ミルクと共に溶解するための水も提供する必要あり。

【アルファ化米の備蓄】

目 的：小麦アレルギーの子どもたちへの主食提供³

品 目：アルファ化米³（特定の商品は限定しない）

備蓄量：小児の2%分⁴

<備考>

¹分子量が小さい方がミルクアレルギーの症状を誘発しにくく、ニューMA-1は本邦で入手可能なミルクのうち最大分子量が最も小さいため

²乳児の約2%がミルクアレルギーと推計される（食物アレルギー診療ガイドライン2012）ことより、若干多く見積もって通常の備蓄用ミルクの3%をアレルギー用ミルクとして備蓄することが妥当と考える。

³パンや麺類は小麦食品であり、小麦アレルギーの児は食べるできない

⁴幼児の約1%、学童の約0.3%が小麦アレルギーと推計される（食物アレルギー診療ガイドライン2012）こと、またアルファ化米は一般の小児も食べられ、お湯や水を入れてだけで食べられることより、自治体における小児の約2%分を備蓄することが妥当と考える。

日本小児アレルギー学会
災害対応ワーキンググループ
(2015年4月17日作成)